

第 1 章 水道ビジョン策定目的

本市は、平成 17 年 2 月 28 日に佐野市・田沼町・葛生町が合併し、行政区域内人口 12 万 7 千人、行政区域内面積 356.07 k m²、山林面積は全体の 61.27%、農地は 14%を占めており、河川も多く「水と緑の自然豊かなまち」で、中でも出流原弁天池湧水は昭和 60 年に日本名水百選として選ばれています。

本市の水道は、この周囲の山々に降った雨や雪が長い時間をかけて作った豊富な地下水を水道水源として利用し供給しています。

水道創設は、葛生地区の昭和 13 年 5 月、佐野地区の昭和 28 年 3 月、田沼地区の昭和 28 年 10 月から、数次の水道事業変更認可を経て、現在は上水道事業と 9 箇所の簡易水道事業を有する形態となっており、現在の給水人口は 12 万 4 千人、普及率も 98.5%に達するまでになりました。

給水開始以来、人口増加や高度経済成長時代に対応するために、水道施設の増設・水道管の布設延長など拡張に次ぐ拡張を進めてきた結果、現在は金額にして約 300 億円の累積投資、23 浄水場、水道管は延長約 800km となっています。

施設拡張投資の峠を越えた今、これからは、今までに整備してきた施設が老朽化しつつあり、施設の大規模更新や再構築が迫り新たな課題となってきました。加えて、少子高齢化、人口減少化、景気低迷の長期化、節水意識の向上など水需要の減少傾向が想定されます。また、災害対策、安全快適な水の確保、運営基盤の強化等も求められており、これらの課題に適切に対処していくために、水環境を総合的に分析した上で経営戦略を策定し、それを計画的に実行していくことが必須になります。

佐野市の水道ビジョンは、平成 21 年度から平成 32 年度までの 12 年間とし、国の水道ビジョンの方針や佐野市総合計画が将来像として掲げる「育み支えあうひとびと、水と緑と万葉の地に広がる交流拠点都市」の実現に向けた施策を踏まえ、佐野市の事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を示した計画とします。

また、目標の達成状況及び各実現方策の進捗状況について定期的に見直し、市民の皆さんの意見を聴取しつつ、ビジョンの見直しを行います。

